

緑肥作物の品種紹介(都府県)

はじめに

2015年9月に行われた国連サミットにおいて、17の持続可能な開発目標(SDGs)が採択されました。目標14「海の豊かさを守ろう」、目標15「陸の豊かさを守ろう」など、地球環境への配慮をした目標が設定されています。従来の生産性を重視した農業では、農耕地拡大のための森林伐採、過剰な農薬や肥料による土壌汚染・水質汚染などの環境への負荷が問題となっています。

これらの問題を解決する方法として持続可能な農業が注目されています。持続可能な農業の形態として、日本では環境保全型農業や有機農業といった取り組みがされていますが、どちらも化学合成された資材に頼らず、土づくりに重点をおいた手法が基本となっています。土づくりの基本は有機物を土壌に供給することですが、緑肥は有機物供給を考えるうえで有効な手段の1つであるといえます。

当社の緑肥のラインナップは多岐にわたり、特に初めて緑肥を導入される場合は何を栽培すれば良いのか分からないという方が多いのではないかと思います。そこで、あらためて当社の代表的な緑肥をご紹介します。

緑肥作物の紹介

アウェナストリゴサ(エンバク野性種)「ハイオーツ」

当社の緑肥の中で最もご利用いただいている品種です。生育が早く多収で、播種後60日で堆肥2トン分の有機物を補給できます。また、ダイコンやニンジンで問題となるキタネグサレセンチュウを抑制し、アブラナ科根こぶ病、ジャガイモそうか病、ダイコンバーティシリウム黒点病、キャベツバーティシリウム萎凋病、アズキ落葉病の軽減など、多様な機能をもっています。

【播種量】

10～15kg/10a



写真1 ハイオーツ

【播種期】

	春播き	夏播き(年内すき込み)	秋播き(越冬栽培)
寒・高冷地	4月上旬～6月上旬	8月中旬～9月上旬	—
一般地	3月上旬～5月下旬	8月下旬～9月中旬	10月中旬～11月上旬
西南暖地	2月下旬～5月上旬	8月下旬～9月下旬	10月下旬～11月下旬

【すき込み時期】

播種後60日前後(越冬栽培を除く)、草丈が80cmになったころ～出穂始まで

【栽培のポイント】

アブラナ科野菜の黒斑細菌病が発生する圃場では、耐性のあるライムギ「R-007」をご利用ください。

ライムギ「R-007(ウィーラー)」

ハイオーツと同様キタネグサレセンチュウ抑制効果があります。ライムギは低温発芽性と低温伸長性に優れるため、エンバクや他の麦類よりも遅くまで播種が可能であり早春の生育も良好です。

【播種量】

6～8kg/10a *線虫抑制効果を出すためには
10～15kg/10a



写真2 R-007

【播種期】

	春播き	秋播き
寒・高冷地	3月下旬～5月上旬	9月上旬～10月中旬
一般地	3月上旬～4月中旬	9月下旬～12月上旬
西南暖地	1月下旬～4月中旬	10月上旬～12月下旬

【すき込み時期】

播種してから60日前後～出穂始まで

【栽培のポイント】

穂が出揃うと茎が固くなり、すき込みがしづらくなるため、出穂前～出穂始にすき込んでください。

R-007は初期生育が早く、雑草抑制、表土の飛散や流亡の防止など、カバークロップとしてもご利用いただけます。下記の播種期では穂が出にくい特性があり、種落ちの心配もありません（*ただし、下記の播種期の場合はカタネグサレセンチュウ抑制効果はありません）。

寒・高冷地	5月中旬～6月下旬
一般地	5月上旬～6月上旬
西南暖地	3月下旬～5月中旬

ヘアリーベッチ

「寒太郎[®]（サバン）」「藤えもん[®]（マッサ）」「まめ助[®]（ナモイ）」

ヘアリーベッチは水はけの良い土壌を好むマメ科の緑肥で、根粒菌の窒素固定により地力の増進効果が期待できる作物です。さらに、アレロパシー効果による雑草抑制が期待できます。弊社では開花期や特性の異なる3品種を提供しています。

【播種量】

3～5 kg/10a

【播種期】

	春播き	秋播き
寒・高冷地	4月上旬～5月上旬	9月上旬～10月中旬*
一般地	3月上旬～4月上旬	9月中旬～11月上旬
西南暖地	2月中旬～3月下旬	9月下旬～11月下旬

【すき込み時期】

開花始、または後作物の作付け時期から3～4週間前

【栽培のポイント】

- ・水はけの悪い圃場では生育不良となる場合もあるため、排水対策にご注意ください。
- ＊越冬利用する場合には、越冬性に優れる「寒太郎」をお勧めします。
- ・春播き利用の場合は初期生育が良好な「藤えもん」「まめ助」のご利用をお勧めします。

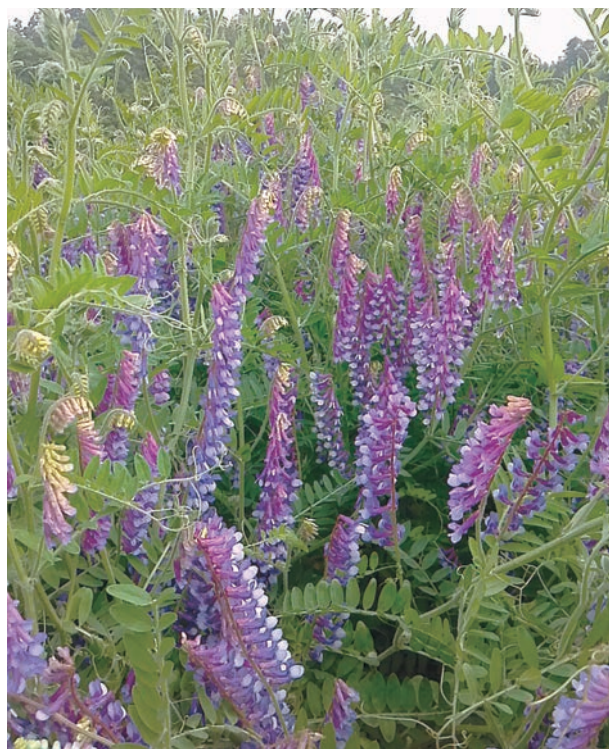


写真3 寒太郎



写真4 藤えもん

「寒太郎」

開花の遅い晩生品種で生育期間が長いので、長期の雑草抑制効果が期待できます。また、越冬性に優れ、積雪地帯での秋播き利用も可能です。

「藤えもん」

低温伸長性と耐湿性に優れた早生品種です。生育・開花が早いので早期すき込みに適します。

「まめ助」

生育旺盛で多収な早生品種です。初期生育も早いので雑草との競合力に優れ、高い雑草抑制効果が期待できます。

クリムソクローバ「くれない」

根粒菌によって空気中の窒素が還元され土壌を肥沃にするため、地力増進に役立ちます。ダイズシストセンチュウを抑制するためダイズの裏作としてよく利用されているほか、綺麗な深紅の花が咲くため景観美化にも適しています。

【播種量】

2～3 kg/10a



写真5 くれない

【播種期】

	春播き	秋播き
寒・高冷地	4月上旬～5月上旬	9月上旬～10月上旬*
一般地	3月上旬～4月上旬	9月中旬～10月中旬
西南暖地	2月下旬～3月下旬	9月下旬～10月下旬

【すき込み時期】

開花始、または草丈が30cm前後のとき

【栽培のポイント】

・花を楽しんだ後でも茎が固くなりにくいので、比較的簡単にすき込むことができます。

*冬期の気象条件によって越冬割合が異なります（多雪地帯では越冬不可）。

カラシナ「辛神」

アブラナ科の植物は作物体中に辛み成分をもっています。細断された作物体が土にすき込まれ分解されると、辛み成分がガスに変わり、市販の土壌薫蒸剤と同様の働きをします。この働きをもつ作物を「薫蒸作物」といいます。弊社の「辛神」は辛み成分を多く含有しているため、高い薫蒸効果が期待できます。

【播種量】

1 kg/10a

【播種期】

	春播き	秋播き
寒・高冷地	5月～6月	8月下旬～9月上旬(年内利用)
一般地	3月～4月	10月中旬～11月上旬
西南暖地	2月～3月	10月下旬～11月中旬

【すき込み時期】

着蕾～開花始

【栽培のポイント】

・「辛神」の生育量を確保するために、状況によ



写真6 辛神

て追肥（窒素成分 5 kg/10a）をするか、「辛神」播種時にヘアリーベッチ「藤えもん」との混播をお勧めします（辛神 1 kg/10a+藤えもん 0.5 kg/10a）

- ・開花期になると辛み成分が茎葉から種へ移行してしまうので、着蕾～開花始に細断してすき込んでください。
- ・十分な効果を得るために生育量を確保してください（生草収量 4 t/10a以上、目安は草丈 1 m 以上）。

ソルガム「つちたろう®（ジャンボ）」

キュウリやトマトのハウス栽培で問題となるサツマイモネコブセンチュウに対して高い抑制効果を発揮します。また、窒素・カリの吸収量が多く、ハウスや畑の残肥をよく吸収するため、地上部を刈り取って持ち出すことで過剰な塩類を除去することができます（このような機能を持つ作物をクリーニングクロップと呼びます）。

【播種量】

5 kg/10a



写真7 つちたろう

【播種期】

	露地	施設ハウス
寒・高冷地	5月下旬～7月下旬	5月～7月
一般地	5月中旬～8月中旬	5月～8月
西南暖地	5月上旬～9月上旬	5月～8月

【すき込み時期】

播種後50～60日

【栽培のポイント】

出穂がとても遅い品種ですので、出穂を待たずに播種後50～60日を目安にすき込んでください。

スーダングラス「ねまへらそう®（スーパーダン2）」

キタネグサレセンチュウやサツマイモネコブセンチュウを抑制します。「つちたろう」と同様にクリーニングクロップとしても利用できます。

【播種量】

5 kg/10a

【播種期】

	露地	施設ハウス
寒・高冷地	5月下旬～7月下旬	5月～7月
一般地	5月中旬～8月上旬	5月～8月
西南暖地	5月上旬～8月中旬	5月～8月

【すき込み時期】

播種後50～60日

【栽培のポイント】

出穂が遅い品種ですので、出穂を待たずに播種後50～60日を目安にすき込んでください。



写真8 ねまへらそう



写真9 ソイルクリーン

ギニアグラス「ソイルクリーン®」

サツマイモネコブセンチュウ、ジャワネコブセンチュウ、キタネコブセンチュウの抑制効果が高く、キタネグサレセンチュウに対してもある程度の抑制効果を持つので、果菜類や根物野菜への緑肥に適しています。

【播種量】

条播 0.3～0.5kg/10a
散播 1.0～1.5kg/10a

【播種期】

寒・高冷地	6月下旬～7月上旬
一般地	6月上旬～8月上旬
西南暖地	5月中旬～8月中旬

【すき込み時期】

草丈1.5m～出穂始（播種後50日～70日後）

【栽培のポイント】

出穂後2週目頃より結実し、雑草化の可能性があるので出穂前にすき込んでください。

クロタラリア「ネマックス」

夏場の地力増進に適した丸葉タイプのクロタラリアです。ネコブセンチュウ、ミナミネグサレセンチュウ、ダイズシストセンチュウなど各種線虫への抑制効果が期待できます。

【播種量】

6～9 kg/10a



写真10 ネマックス

【播種期】

寒・高冷地	6月～7月（ハウス）、7月（露地）
一般地	5月下旬～7月中旬
西南暖地	5月上旬～8月上旬 2月下旬～9月下旬（沖縄・奄美諸島）

【すき込み時期】

播種後60～80日程度、草丈1～1.5mのとき

【栽培のポイント】

- ・晩生品種で、早く播いても短日条件にならないと開花しないため、開花を待たずにすき込んでください。
- ・細断後のすき込みをお勧めします。細断せずにすき込む場合は作業機の能力に適した草丈ですき込んでください。

おわりに

弊社の代表的な緑肥をご紹介しましたが、導入の際には目的や播種時期に応じて品種を選択していただく必要があります。ご不明な点がございましたら最寄りの営業所か研究農場までご連絡ください。